学生国際協力団体 CHISE

大橋茜（3 回生），野村彩（3 回生），根上凪（1 回生）

キーワード：ラオス，国際協力，教育支援

1. 団体概要

学生国際協力団体 CHISE （チーズ）は,『「はいチーズ」の一言で世界に広がれピースの輪！』をコンセプトに,ラオスの子どもたちの教育環境改善を目的として 2009 年に設立された。現在のメンバーは 22 名で，環境人間学部以外にも国際商経学部，看護学部，工学部，理学部，また，関西学院大学や神戸市外国語大学の学生で構成されている。

CHISE は,ラオスの山岳地帯に位置するルアンパバーン県の郊外にある農村地域を拠点としている。これまでに 5 つの校舎建設と，幼稚園児を対象としたラオス語教室を開いてもらうプロジェクトを行った。現在は，今年度支援を開始した H 村の状況改善に向けて活動している。洪水被害に伴い傷んでしまった椅子や机などの学校備品を新たに寄付するために，クラウドファンディングを実施し，目標額の資金調達に成功した。また，ラオスでの支援に加えて,国内での活動にも力を入れているため,以下にその取り組みについて報告する。

2. 具体的な活動内容

2.1 支援先の選定

昨年度から CHISE は，新たな支援先や支援内容を検討していた。2025 年 3 月に現地訪問をした際には，新たな支援先の候補として，洪水の被害を受けているポンサイ郡の H 村を訪れ，洪水被害の実態や教育環境の現状について詳細な調査を行った。

その結果，H 村は毎年雨季である 9 月から 10 月にかけて校舎裏の川が氾濫し,洪水の被害を受けていること，被害が大きい年には，校舎が天井まで浸水し，教材や机・椅子・黒板・本棚などの備品が損傷していることが分かった。洪水時には村人所有の小屋を臨時の教室として使用しているものの,設備が整っておらず,学習環境としては不十分であった。このような状況が続くと,都市との格差だけではなく,農村間の格差も引きおこしてしまう。そのため，継続的な教材支援や教育環境の改善に向けた支援が必要であると考えた。

写真 1　H 村で学校の調査を行う様子

2.1 クラウドファンディングの実施

H 村での調査結果を受けて,洪水被害への対策として,高床式校舎の建設に向けた資金調達を検討した。しかし，現地コーディネーターによる見積もりの結果,想定を大幅に上回る費用が必要であること,また,H 村が将来的に廃校となる可能性があることが判明し，校舎建設は現実的ではないと判断した。これを踏まえ,廃校となった場合でも移動させることができる備品を対象とした物資支援を行う方針を決定した。従来の資金調達手段のみでは必要な資金を賄うことが困難であると判断し,他の手段としてクラウドファンディングを実施した。

クラウドファンディングは 2025 年 8 月 22 日から 9 月 30 日までの期間で行い，机・椅子・黒板・本棚などの学習備品の購入や,被害を受けた教室の修繕費用を主な支援内容として設定した。

資金調達にあたっては，SNS を中心に情報発信を行い,洪水被害によって教室が使用できなくなっている現状を，写真と文章で共有した。被害の中でも学習を続けようとする子どもたちの姿を伝えることで,支援の必要性がより具体的に伝わるよう工夫した。

その結果,クラウドファンディングでは目標金額である 40 万円を達成することができた。現在，集まった支援金を学習備品の購入に充てる準備が進

められており，今後このような整備が行われることで，子どもたちが安心して学習できる環境が整えられる見込みである。

写真 2　クラウドファンディングの実施・達成

2.3 その他の支援・活動

2025 年度に行ったその他の活動として，以下の 3 点を挙げたい。

1 点目は，神戸三宮センター街で開催された RE: CYCLE KOBE CITY FES での物品販売である。この活動では，ラオスの小物や雑貨の販売に加え，写真の展示を通じて現地の状況を伝えたほか，募金活動およびクラウドファンディングの周知を行った。SDGs に取り組むさまざまな団体が集まり，たくさんの人が行き交う場所でのイベントに参加したことで，より多くの人々が，ラオスが抱える問題について知り，考えるきっかけを提供することができた。

2 点目は，神戸市青少年会館主催のユースフェスへの参加である。この活動では，小中学生やその保護者を対象にラオスに関するクイズを実施し，参加者には景品としてお菓子を配布した。クイズ形式にすることで子どもたちが楽しみながらラオスについて学べる場を提供すると同時に，保護者の方々にも私たちの普段の活動内容や，ラオスにおける教育状況について知ってもらう機会となった。

3 点目は，現地での支援に活用するための募金活動である。神戸の街頭での募金活動に加えて，学園祭でも募金活動を行った。学園祭では，ラオスの現状や私たちの活動について紹介しながら募金を呼びかけ，多くの人に関心を持ってもらうことができた。ここで集まった資金は，ラオスの子どもたちの文房具購入や教育環境の整備など，教育支援を目的として活用する予定である。

写真 3　地域の子どもたちと交流する様子

3. 地域との繋がり

2025 年度も 2024 年度と同様，兵庫県立丹波篠山産業高等学校と交流し，高校生たちが教育支援について考えるきっかけ作りを行うことができた。その結果，篠山産業高校の学生たちが，文房具などの寄付物を集めてくれたり，私たちが週末に神戸で行っている街頭募金やミーティングにも一緒に参加してくれたりした。その他にも，2025 年 9 月には姫路市立置塩中学校で講演会と交流会を行った。それにより，中学生がラオスについて自主的に調べるきっかけや，ラオスにおける教育の現状について考える機会を提供することができた。

4. 今後の展望

現在は，次回の現地訪問に向けて，新たな支援先の候補となる村の訪問準備を進めている。実際に現地を訪問し，村人や教員に直接インタビューすることでしか得られない情報，要望の調査を行う予定である。また，過去に CHISE が支援してきた村も訪問し，篠山産業高校などから寄付していただいた物資を直接村の子どもたちに渡す予定である。2026 年度からも，村の自立を目標とした支援内容を考えていきたい。

さらに，中学校や高校への講演会や，募金活動，写真展，地域でのイベントへの出店など，私たちの活動内容を多くの人に知ってもらう活動を継続的に行い，ラオスの教育の現状を伝えていく予定である。また，そういった活動を通して，地域の学生が自発的に行動するきっかけ作りも行っていきたい。